

斑点米カメムシ類の被害に要注意

斑点米カメムシ類とは

カメムシ類が籾を加害すると黒色または茶色の斑点ができた玄米、いわゆる「斑点米」が生じます。

斑点米カメムシ類は、斑点米被害を引き起こすカメムシ類の総称であり、全国で30種以上存在しています。



図 斑点米

斑点米カメムシ類の種類

アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、クモヘリカメムシ、イネカメムシ等が主要種とされています。
地域毎に主要種となっている種類は異なります。

1. アカヒゲホソミドリカスミカメ

体長5～6mmの小型種、年間の発生世代数は3～5世代程度。イネ科植物に産卵し、卵で越冬します。割れ籾の発生が多いほど、斑点米が多くなるとされています。

2. クモヘリカメムシ

体長15～17mmの大型種で、年間の発生世代数は1～2世代程度。樹木枝葉、樹冠等で成虫で越冬します。

3. イネカメムシ

体長12～13mmの大型種で、年間の発生世代数は1～2世代程度。他の斑点米カメムシ類と異なり、稲への嗜好性が高いです。また、斑点米だけでなく籾が充実しない被害、いわゆる不稔被害を引き起こします。



図 斑点米カメムシ類

防除対策について～地域一斉の防除で効果UP～

標準的な防除対策は、以下のとおりです。

斑点米カメムシ類の種類等によって、効果的な対策は異なりますので、詳細は都道府県病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

その1 適期の薬剤散布

- ✓ 都道府県の発表する発生予察情報を参考にしながら、水田内の発生状況、水稻の生育状況をよく確認し、適期に薬剤散布を実施しましょう。
- ✓ 薬剤散布は主に収穫期以降に実施されますが、薬剤散布の適期は、斑点米カメムシ類の種類や使用する薬剤の種類により異なりますので、各都道府県の防除指針、地域の防除暦等を参考にしてください。



イネカメムシ対策（不稔被害防止）では、収穫期の薬剤散布を実施しましょう。一部の地域では薬剤抵抗性が発達した個体（特定の薬剤が効きにくい個体）も確認されています。同一系統の薬剤の連用は避け、ローテーション散布を心がけましょう。

その2 雑草管理の徹底

- ✓ 水田周辺の畦畔、休耕田等の雑草除去を実施し、斑点米カメムシ類の密度低減を行いましょう。
- ✓ また、水田内のノビエやイヌホタルイも斑点米カメムシ類の増殖・飛来源となりますので、除草しましょう。



収穫期以降の畦畔の除草は、かえって畦畔の斑点米カメムシ類を水田に追い込むことになります。草刈りは、稲の収穫10～15日前までに終了しましょう。

斑点米カメムシ類の1年間

斑点米カメムシ類は、イネ科雑草で繁殖することが多く、稲の出穂前後に水田に侵入します。

発生量はその年の気候条件や周囲の環境により、大きく変動します。

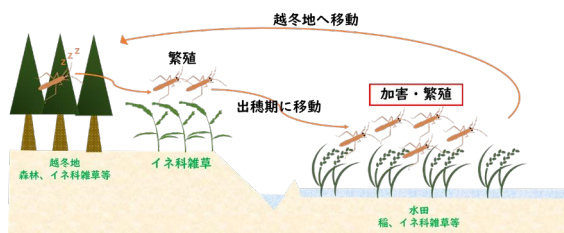
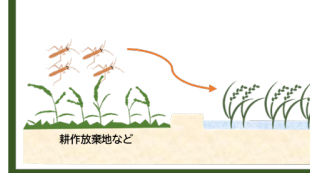


図 斑点米カメムシ類の大まかな動き

こういった場合は、斑点米被害が発生しやすい

近くに雑草地などの繁殖源がある



高温・少雨
カメムシが増殖しやすい条件



割れ籾の発生が多い
幼穂形成期が低温・日照不足、登熟期が高温の場合で割れ籾が発生しやすくなります。

